


## 官民連携の実働を伴う地球温暖化対策プロジェクト ～土地本来の森の再生「湘南国際村めぐりの森づくり」～

取組開始時期	2009年	取組の カテゴリ	環境対策	応募部門 (○をつける)	○	PF会員間連携部門	一般部門
1. 団体名	非営利型一般社団法人Silva（シルワ）		2. 連携先の 団体	◎神奈川県			
3. 取組目的	環境に負荷の少ない森林再生により、土地本来の森を再生し、気候変動や災害の対策をする。					4. 関連する ゴール	

## 5. 取組経緯

湘南国際村めぐりの森は元々水源林で、約25年前から民間事業者により開発が行われましたが、業績不振により神奈川県へ無償譲渡された後、放置されていました。2008年神奈川県は、全国で宮脇昭先生が提唱している土地本来に生育する常緑広葉樹林を再生する緑化への気運の高まりを受け、国民・企業・行政が一体となった協働参加型のコア事業としてこの一帯の緑化事業を開始しました。当事業担当は「混植・密植方式植樹推進グループ」で、現在は当法人がリーダーを担っています。

## 6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

2009年より累計6万本以上を植樹し2haを原生林に近い土地本来の森へ再生しました。当法人は担当グループのリーダーとして、年に2回の植樹祭の運営から通年のメンテナンスや調査活動まで、総括しています。



## 取組のポイント（3つの視点）

## 地方創生SDGsの視点

県内の障害者福祉施設で育てた苗木や、限界集落や農家から自然素材を資材として購入・活用し、地域の活性化・雇用支援へ繋げています。植樹事業にはボランティアや研修を受ける若者もおり、地域市民の交流や健康的な活動や次世代への教育の場としても機能しています。

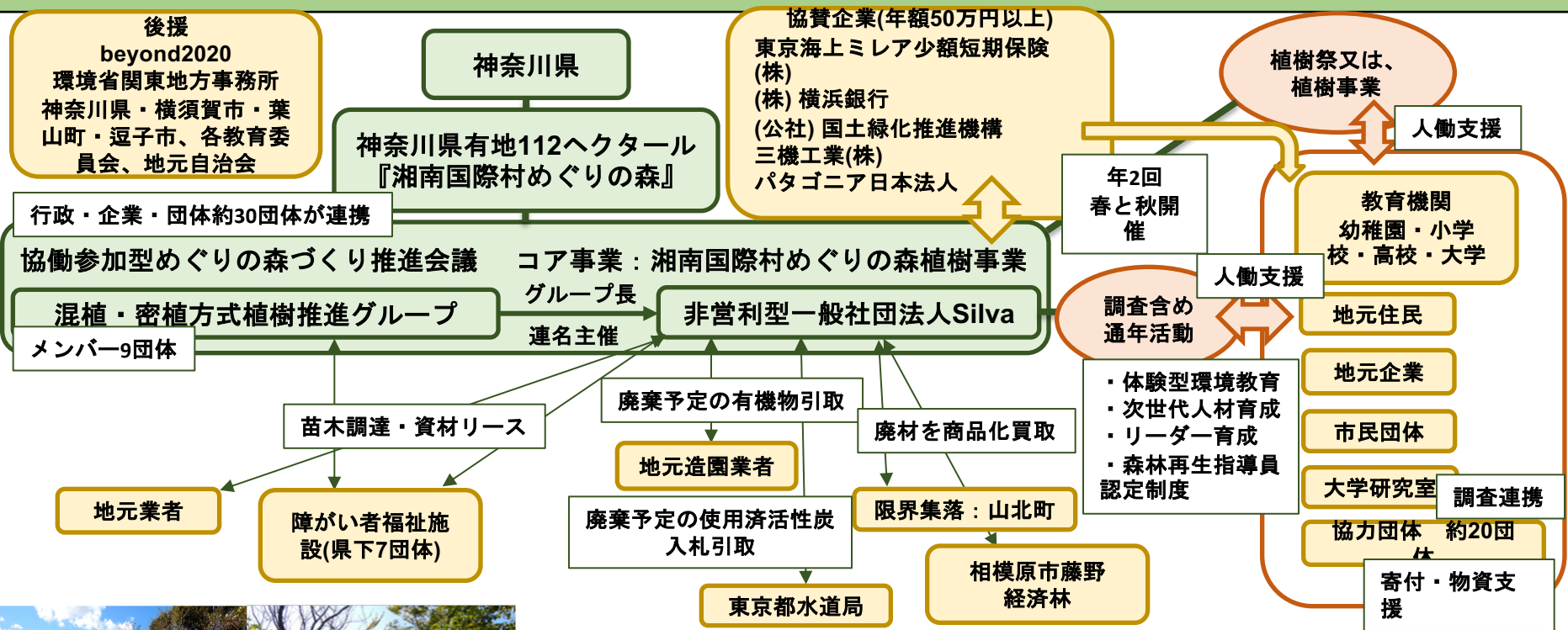
## ステークホルダーとの連携

当事業は神奈川県のコア事業であり、協働連携の母体となる協働参加型めぐりの森づくり推進会議では、事務局を県が勤めます。推進会議には関連自治会及び葉山町・横須賀市・逗子市も参画しています。当法人は、推進会議の中核を担う混植・密植方式植樹推進グループのリーダーです。

## モデル性・波及性

当法人が顧問として指導した(株)家具の大正堂の森づくり事業は環境大臣賞を受賞。今後も小学校や地域自治体と提携を予定。当法人が混植・密植方式を改善し「生態系機能回復式 植生復元」を考案しました。この功績により、代表理事は、環境省より低炭素社会貢献賞を受賞しました。

## 7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）



これまで植樹した累計約2ヘクタールが極相林になるまでの15年間で、推定されるCO2の固定量は約1,400トンとなります。土壌理化学改善には、横浜市海の公園にてクリーン活動の一環で拾う焼却処分予定のアオサや、東京都水道局より購入した使用済み活性炭、県内限界集落より購入する粒炭を用いています。また、見直し前の従前の方式で植樹地の既存の木を撤去し焼却処分していたのを取りやめ、更に県内農家より購入するワラを資材として活用し、植物残渣の焼却回避しています。これらの見直しによりめぐりの森では年間約50トンのCO2削減量を推定できます。当法人が考案した「生態系機能回復式 植生復元」では従来よりコストを7分の1程に削減し、より長く大きな範囲の緑化に見通しが立ちました。土地本来の森の再生を通じて、コミュニティ創生・環境教育・参画平等・福祉貢献・資源再利用等へ波及しながら、生態系の回復と防災・地球温暖化対策を目指し、当該地「湘南国際村めぐりの森」では、2030年までに事業を継続し累計4ヘクタールの防災林を目指します。（[Silvaホームページ](#) SDGsの取り組み）